

視 点 1

個の存在を認め、個の存在を大切にすることの内容・方法を明確にすること

それには 1-2

発達段階、学校規模等を考慮して、個の存在を大切にしようとする意識を高める。

そのために 1-2-1

学年教師の空き時間を週計画の同一時間に位置づけ、「個の存在を大切にすること」のための話し合いを、年間を通して継続的に進める。

そこで

1. 空き時間を同一時間に位置づける。位置づけられない場合には、放課後に時間を確保する。
2. 学年会では、児童生徒一人一人の理解のための話し合いの時間を多くとる。
 - 学級目標や個人の目標達成への取り組み方、達成状況など。
 - 学校行事の中で一人一人の活動を意図的・計画的に位置づけることなど。
 - 学級の係や児童・生徒会の活動、清掃等奉仕活動への取り組みの様子など。
 - 休み時間の過ごし方、友達関係など。
3. 学年会で児童生徒理解（個の存在を大切にすること）のための理論や方法、一人一人の進歩を認め、励ます指導法を研修する。
4. 個の存在を大切にすることの学級経営について、継続して話し合いを進める。

留意点

- 1-1 学校や学年全体で、意図的・計画的に時間を確保するように努める。
- 2-1 互いに実践例を出し合い、優れた実践例を学び合うとともに、悩みなども話せるようにする。
 - 2 学年会では、自己表現が見られた行動・活動例を紹介し、学年全体で紹介するなどして他の児童生徒の意欲を喚起するように努める。
- 3-1 「個の存在を大切にすること」の観点やその機会を分かりやすくまとめてプリントしていつでも見られるようにしておく。
 - 2 共通して使える資料を作成し、他の学級でも活用できるようにする。

視 点 2

個の特性をとらえ、生かすことの内容・方法を明確にすること

それには 2-1

教職員間の共通理解を図ったうえで「個を生かすこと」のための内容・方法を学年・学級経営等に位置づける。

そのために 2-1-1

教師と児童生徒、児童生徒相互の心の触れ合いを大切に、望ましい人間関係を築く場を位置づける。

そこで

1. 帰りの会において生活班・学習班・グループの中で一人一人のよかった行動や考えを発表させ、班日誌に記録させる。
2. 地道に努力している児童生徒を学級新聞等で紹介する。
3. 話し合う機会を多くするために、昼食の時間の活用を工夫する。教師が順に児童生徒と食事をとるための会食風の場を設定する。
4. 朝の会や帰りの会に、自己紹介や二人組による友達紹介などの機会を設ける。
5. 給食後の休み時間等に、生徒とともに過ごし児童生徒のよさを見だし、認め、賞賛するようにしたい。
6. 教師と児童生徒の交流の輪を広げるために、教師と児童生徒が共にゲームをしたり遊んだりする時間を日課の中に位置づける。
7. 奉仕活動や部活動の場を巡回訪問し態度や意欲などの情意面でのよい点も認め、賞賛する。
8. レポート作りや児童生徒理解のために手紙による励ましや、電話による相談を計画的に実施する。